

120
文藝的血族としてのシナリオ

西木 崎 井力

総合藝術のうちで、最も複雑な形式と内容を
 含む映画にあつて、そのシナリオの位置は
 映画制作の上で重要な一つの単位をなすもの
 であると言ひ得るのであらう。殊に、作家とし
 ての立場に立つて言ふならば、シナリオは文
 藝的血族といふことごと、シナリオを映画橋構
 の中で第一の位置におきたいといふこととし、
 また許容されることではないかと思ふ。良き
 シナリオは良き映画を証生するのであらう。す
 くなくとし、私はさう信じたい。勿論、監督
 俳優・カメラマン等の他の良き精神が、そのシ
 ナリオを理解しない限りは、良きシナリオも
 また、一篇の白紙に止らぬ。一篇の良き
 シナリオは、一篇の良き映画の母胎であるこ
 とを疑ひたくなないのである。